



第 198 回例会

日 時：平成 23 年 4 月 12 日 (木) 11:30～13:30

場 所：八王子エルシィ

出席者：68 名 欠席者 3 名 出席率 95.8%

(会員総数 71 名 休会 0 名)

1. 開会 有泉例会委員長の司会で開会



本日の資料の紹介と出席状況の報告がありました。

2. 会食・ハッピーコイン披露

佐々木会長からハッピーコイン（後掲 22 件）の披露がありました。

3. 挨拶 佐々木会長



漸く春らしい陽気が訪れ、桜が満開となりました。春は、入学、進学、就職といった人生節目のスタートの季節です。小学校 1 年生が、体に不釣り合いな大きなランドセルを背負い、ドレスアップした母親に手を引かれながら、小走りに入學式に向かう姿をよく見かけます。よく見ると、カメラを持った父親のほか、ことによると祖父（母）らしい方がご一緒のこともあり、高齢化時代らしい何ともほほえましい光景です。

後ほどご紹介いたしますが、永年中小企業金融に携わってこられた専門家を、会員にお迎えすることとなりました。まことに喜ばしい限りで、存分のご活躍とご厚誼のほど、宜しく願いいたし

ます。

さて、この例会のあと、生涯学習サロン第 3 週のスケジュール実行となります。生涯学習サロンは、会員一致の尽力により、これまでのところ極めて順調に取り運ばれており、ご同慶の至りです。引き続き宜しく願いいたします。

私も、本日の話し手として登板し、欧州財政危機やわが国財政の現状等についてお話しする予定ですが、その資料を集めていたところ、次のような若者の本音を伝えたもの（「金融財政ビジネス」）があり、慄然としましたので、紹介します。

「今の膨大な政府債務（国債）は、年配層の人々が作ったものであり、その付けを若者が返す義務はない。ハイパーインフレ（極度のインフレ）によって解決できるなら、それによって片付けてほしい。早く世の中がリセットされた方がよい。ハイパーインフレが預金価値を減価させるとしても、それは多額の預金を持っている年配層の心配事で、若者はあまり関係がない」と。この若者の本音に、どう答えたらよいのでしょうか。

本日配布の「プロバスだより」の中の会長挨拶で、伊藤博文の肩書が工部卿とあるのを工部大輔に修正してください。

4. 新入会員紹介と新入会員挨拶、及びバツジ贈呈



杉山会員より会員番号 129 番、所属は会員委員会、の鈴木弘昭さんの新入紹介があった。鈴木会員は昭和 16 年生まれで 71 歳、万町に住んでおられ、その町会長をされており、塩澤会員と御縁続きとの事。信用金庫畑 50 年で太平信用金庫理事長・多摩信用金庫副理事長を退任後、20 か所に上るボランティア活動をしておられ、

趣味は書道とのこと。皆様どうぞ宜しく。

ご本人挨拶では、権威あるクラブに入会できて感謝申し上げたい。東京の蒲田で生まれ、終戦間際に八王子に疎開をし、そのまま居続けている。子供7人、孫8人、頼まれると嫌と言えない性格で20か所のボランティア活動をしています。今後とも宜しくとの挨拶があった。

佐々木会長よりプロバスクラブのバッジが贈呈された。

5. パースデー報告・パースデーカード贈呈

会長より4月のパースデー報告と池田会員の作成したパースデーカードが各自に贈呈された(4名、欠席 内山会員)。



6. 幹事報告 永井幹事



会員状況は今年度初めに1名加入、本日1名加入で会員数は71名。休会もご不幸による退会も昨年度からゼロが続いているのでこの記録をぜひ伸ばしてゆきたい。

7. 委員会報告

(1) 例会委員会

出席状況報告(前記のとおり)。

(2) 情報委員会 馬場委員長



本日配布の「プロバスだより」は手違いで旧バージョンを配布してしまったので、次回例会時に新バージョンを配布します。今回の例会は198回で6月には200回になります。記念と

して創立会員8名の方(大串、大野幸二、大野聖二、岡田、小林貞男、立川、濱野、古川各会員)に思い出、感想等の投稿(任意です)をお願いします。6月から何回かに分けて掲載します。

通常の投稿記事は緩やかに続けます。

(3) 会員委員会 浅川委員長



本日の新入会員の加入で会員総数が71名になりました。名簿の訂正が2か所あります。東山会員のFAXがTELと同じになった事と、岡部会員の番地が102-2ではなく、101-2

に訂正してください。

(4) 研修委員会 岩島委員長



2年がかりで作成してきた派遣講師のリストの修正が終了しました。追加で修正あれば本日中に研修委員へ連絡をしてください。製本をして次回例会時に配布します。

(5) 地域奉仕委員会 田中委員長



学習サロン真最中ですが、今までスムーズな運営ができ、皆様の協力に感謝します。

本日の第3週サロン、次回の野外サロン、次々回の閉講式及びさよならパーティーが続いていますので、気を緩めず、引き続き協力をお願いします。

今までの出席率状況ですが、開講式119/149名で80%、第1週134/156名で86%でしたが、第2週は118/152名で78%と低下しました。特に一般会員の出席率が53%と低調だったので、本日の第3週のサロンに向けて、一般会員へ池田会員の絵手紙のリマインダーを出したので結果がどうなるか期待しています。

4月26日の野外サロンは八王子駅南口みずほ銀行前に7時45分集合、8時出発します。今回はバスの中で例会がないので受付終了後1、2号

車どちらか好きな方へ乗車してください。プロバスの名札は当日地域奉仕委員が渡しますので、終日着用してください。

会員委員会、研修委員会、交流担当、特になし。

8. 「宇宙の学校」報告 下山運営本部長



「宇宙の学校」の報告は本日ありません。

5月21日サイエンスドームで金環日食観望会が行なわれます。6時30分から受け付け開始。次回の金環日食は2030年に北海道で、次は2035年に皆既日食が中部地方で見られるそうですが、かなり先になるので、今回は是非皆様の参加を期待します。参加希望者の概数を知りたいので、希望者は本日提出してください。

杉山会員より参加者に日食眼鏡を無料で配布しますが、これは宇宙の学校の後援会から350個、45,000円程支援していますとの追加報告があった。

9. 同好会報告

(1) 茶道の会 竹内会員



報告3件。3月22日「一期一会の出会いを楽しむ茶会」への参加者が少ないと思っていたが、他も少なく良い方だったとの事。4月6、7日に同好会で桜を見に行ったが、桜は咲いてなく残念だった。4月24日に例会を行います。

(2) ゴルフ同好会 米林会員



本年最初のコンペを5月24日にGMG八王子ゴルフ場で予定しています。案内状の無い方は、直接連絡をください。

10. その他 立川会員

全日本PC協議会の役員会が今月3日京都で開

かれた。今回は総会に向けた人事で、金森会長、吉川幹事長が退任となり、後任会長に加藤（元横浜PC会長）さん、後任幹事長に森山（現横浜PC会長）さんが就任予定。



総会は11月13日神戸で開催予定。今回もツアーを組んで行く予定。

全日本PC協議会の会費2000円を3000円に値上げします。

私は、もう1期副会長を継続します。

10. 卓話

“天空の峰を訪ねて” 矢島一雄



趣味の山歩きとカメラを背負い2001～2007年にかけて4回、延べ50日ヒマラヤへ入った。ヒマラヤで撮った写真の中から50枚程をDVDに編集したので、後程供覧(6座/14座の山の写真)します。

今やエベレストと云うと、ヒマラヤにあるという事は小学生も承知なくらい、知名度は高い。

世界で8000mを超える山は14座あるが、一番高い山は、チベットと中国の境にあるエベレスト(8848m、初登頂は1953年イギリス隊)になるが、名前の由来は、イギリスが測量所の所長の名前から取った。チベット側ではチョモランマと呼んでいる。

2番目に高い山はK2(パキスタン・中国、8611m、ヒマラヤで1番西の峰、初登頂1954年イタリア)と云うが、測量でカラコルム地方にある2番目の場所にある山ということで、K2と呼ばれた。

3番目はカンチェンジュンガ(ネパール・インド、8586m、ヒマラヤの1番東の峰、初登頂1955年イギリス)。

4番目ローツェ(ネパール・中国、8516m、初登頂1956年スイス)。

5番目マカルー(ネパール・中国、8463m、初登頂1955年オーストリア)。

6番目チョ・オユー(ネパール・中国、8201m、

初登頂 1954 年オーストリア)

7 番目タウラギリ (ネパール、8167m、初登頂 1960 年スイス) 日本の僧侶が入山した事や、7800 m 級 1~10 峰のうち、3 峰日本が制覇したことがあり馴染み深い。

世界で 14 座全てを踏破したのは 20 人いるが、日本人はまだいない。世界で初めて 14 座全て踏破したのは 1986 年にイタリアのメスナーが最初である。

現在竹内 (41 歳) さんが 13 座を踏破し、残るタウラギリ登頂に向けて挑戦中。5 月中旬過ぎの報告を期待している。

8 番目がマナスル (ネパール、8163m、初登頂 1956 年日本)。1953 年から 3 度目の挑戦で今西寿雄が成功。

9 番目ナンガ・パルパット (パキスタン、8126 m、初登頂 1953 年ドイツ)。

10 番目アンナプルナ 1 峰 (ネパール、8091m、初登頂 1950 年フランス)。人類が初めて 8000m を超える峰に登頂。

11 番目ガッツシャブルム (パキスタン・中国、8068m、初登頂) 1958 年アメリカ)。

12 番目ブロード・ピーク (パキスタン・中国、8051m、初登頂 1957 年オーストリア)。

13 番目ガツシャブルム (パキスタン・中国、8035m、初登頂 1956 年オーストリア)。

14 番目シシャパンマ (中国、8012m、初登頂中国)。長い間中国のご都合主義によって外国の登頂を拒絶していた為。

国別の初登頂を見てみるとオーストリア 3 座、イギリス、スイス、フランス各 2 座、イタリア、ドイツ、アメリカ、日本、中国各 1 座となる。

前述の DVD 供覧があった。

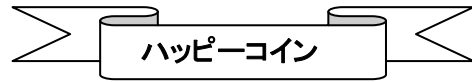
11. プロバスソング斉唱

12. 閉会の挨拶 吉田副会長



ヒマヤラの天空の峰の余韻がまだ冷めやらぬところですが、卓話は予備知識を与えてもらってから、素晴らしい DVD の供覧を頂き、ありがとうございました。この後学

習サロンの第 3 週が始まりますが、先程紹介頂いた一般会員の参加率を高めるために、池田会員の絵手紙のリマインダーを出して頂いたとの事、ありがたいことです。皆様のなお一層のご協力を宜しくお願いいたします。



◆本日の例会からお仲間に加わって頂きます鈴木弘昭さんをご紹介します。皆様宜しくお願いします。 杉山友一

◆本日権威あるプロバスクラブに入会させて頂きました。宜しくご指導の程お願いします。

鈴木弘昭

◆4 月 1 日エイプリルフール 76 回目の誕生日を元気に迎えました。感謝します。塩沢迪夫

◆4 月 3 日は私の誕生日、16 日は娘の誕生日で、私達夫婦の金婚式 (50 年)。よくこんなに長く一緒に居られたと夫婦 2 人で喜んでいきます。

熊田真瑜美

◆先月港区の区民大学を無事終了。仲間とボランティアを始める予定。

増田由明

◆春の花が一斉に咲き揃っています。梅・木蓮・れんぎょう・雪柳、そして少し遅れの紅椿。これを「百花繚乱」と云うのでしょうか。

新入生ランドセルから手足伸び 河合和郎

◆5 月 6 日オリンパスホールで西本智実指揮日本フィル演奏の「マーラー交響曲第 2 番復活」に合唱で出演します。東北の復活を心から祈って歌います。

八木啓亮

◆皆様のご支援を頂き、住宅地の墓地問題が解決 (寺側の全面撤退) 致しました。請願の陳情に署名下さった方々に感謝申し上げます。 市川昌平

◆グアテマラのジャングルに、マヤの都市遺跡を見てきました。数千年の歴史を刻んでも、1 千万人の人口があっても、マヤ民族は減んでしまいました。「色即是空」。

荒 正勝

◆庭の花々が一斉に咲き、まさに春本番。豊かな気分でここ 2~3 日過ごしています。ハッピー・ハッピーです。

飯田富美子

◆お茶の会でお花見の旅に行きましたが、桜は

全く咲いていません。翌日馬籠宿、奈良井宿を巡り、皆で楽しい旅をしてきました。阿部治子

◆3月22日の学習サロンで「一期一会の出会いを楽しむ茶会」に大勢の方をお迎えしました。

関係各位にお礼申し上げます。竹内賢治

◆前回のサロン「一期一会の出会いを楽しむ茶会」が、盛大に無事終わりホットしています。

高取和郎

◆ロンドンより娘一家5人が一時帰国し、賑やかな日を送れましたが、ちびっこ2人に振り回されて、疲労困憊と云うところです。佐々木正

◆明治42年生まれ之母が4月14日に103回目の誕生日を迎えます。頑張ってます。川村真

◆孫2人が中学と小学校に入学できました。素直で元気一杯学校生活を、楽しんで欲しいと祈ります。根本洋子

◆上の男孫が無事高校を卒業して、専門学校へ入学。目標に向かって頑張ってもらいたい。陰から見守って行きたいと思います。有泉裕子

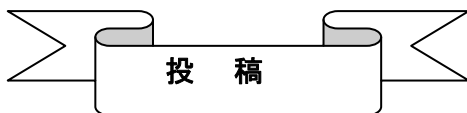
◆ハッピーコイン2枚献呈。熊田真瑜美

◆昨年4月11日に自転車で横転、両股関節の骨挫傷。砕けた両股関節は動く事も出来ずに、辛い入院生活だったのが、やっと1年ぶりで杖が取れました。正常に戻るのに、もう1年かかると思いますが、まずは杖が無くなったのは幸いです。

熊田真瑜美

◆やっと暖かくなった事に感謝して。野口浩平

◆今月満80歳になります。これからも自然体で「公平無私」を心がけて生きていきたいと思います。あと何枚池田さんのバースデーカードを頂けるでしょうか。佐々木研吾



(投稿1)

句会へのお誘い

俳句同好会 渋谷 文雄



昨冬、俳句の会が誕生し、毎月「句会」が催されるようになった。会員相互の鑑賞に加えて、河合和郎宗匠の適切な講評と丁寧な指導があって、会員の作句力の向上は著しく、「知的快樂

とはこの事かと思うくらいに楽しい。更に多くの会員の入会をお薦めし、以下に4回開催された句会で、会員が特選とした「入選23句」を紹介する。

第1回(平成23年12月8日;出席7人)

絆とは命ありてや冬の浜 (和郎)

冬の川微動だにせず驚一羽 (文雄)

生垣に古菊のぞきし山家かな (和郎)

散るや散る黄落止まぬ大銀杏 (和郎)

霜柱踏み崩し行く裏高尾 (文雄)

第2回(平成24年1月9日;出席5人)

初氷朱色ぼんやり池の鯉 (和郎)

いなないて春呼ぶ牧の駿馬かな (和郎)

つくばいにそっと手をやる初氷 (富美子)

雨ごとにひかりましゆく猫柳 (和郎)

波寄せる岸辺に薄き初氷 (文雄)

ふるさとの冠雪光る四方の山 (富美子)

噴水のつららを横に急ぎ足 (征彦)

第3回(平成24年3月7日;出席5人)

妻なくも雛を飾りて瞑目す (文雄)

卒業の袴姿にホーム映え (征彦)

ふと屈み下萌え愛でし散歩道 (栄)

芽柳に洩るる明かりや三味の音 (和郎)

卒業す地震(ナ)の地遠き仮校舎 (和郎)

第4回(平成24年4月11日;出席5人)

散る桜誓って征きし友ありき (文雄)

病む姉のベッドにとどく春の風 (富美子)

桜咲く愛でる人なき北の町 (和郎)

葉隠れの枝に咲き初む山桜 (栄)

桑の葉の青々として機の里 (和郎)

(投稿2)

閑話三題

河合和郎

その1 プロバスに参加して



プロバスクラブにお世話になって1年が少し過ぎた。第一印象は多士済々の面々が集まった異能集団。とにかく様々な分野のエキスパートが揃っている。わが身の経歴に比べて、この集団は何だ!というのが正直な印象。専門性からいえば私などまったく資格がない。

私は地方自治体に37年、地元の経済団体に13年、都合50年の仕事を通して地域づくりにいささかなりともお役に立てたのか、組織の一端を担って縁の下の力になれたのか、あまり自信はない。従って専門分野も持ち合わせていない。だから、例会の席上での会話やサロンでのメンバーの方々の「人生の成果や趣味の分野での蘊蓄」を拝聴し、ただただ驚嘆するばかりである。私にはとてもそんな芸当はできないし、滔々とお話をする中身も持ち合わせていない。私はどうやらとんでもない集団に入り込んでしまったらしい。

しかし、物事は考えようで、こんなに多芸多才な方々から、いろいろな分野の面白ごとを教えて頂き、人生の終盤を夷り多きものにすることができたら、これは願ってもない僥倖に恵まれたことになるのではないかと。そう思い直して老学一途に励むこととしたいと思っている。

その2 俳句との出会い

私は定年退職を前にして、仕事を離れた後々も趣味の世界の友人を持ちたいと、あるイベントでお世話になった方のご指導を得て、俳句の世界に入った。作品のレベルは別として、新しい分野の方々とお知り合いになれ、退職を迎えたときは、仕事の分野とはまったく別な俳句のお仲間を沢山持つようになっていた。

以来20年余り、人間関係の幅も広がり、楽しい時間を持つようになった。俳句の良いところは、作品づくりを通して仲間としての交流ができることである。人と人との交流が若さを保つ最適な手段といわれるが、俳句はまさに人間交流の面からも理想的である。

さらに、俳句は頭のトレーニングに最適といわれている。一応文芸作品を生み出す創作活動だから、それなりに物事を考え、自然を観察し、適切な言葉を選んで、17文字に収める工夫をする。

私の所属する結社にも80歳、90歳台で元気に句会に出席され、若々しい発想と瑞々しい感性の句を作られる方がいらっしゃるが、こうした実態を見るにつけ、創作という刺激によって脳は衰え知らずという、俳句の効能を実感するのである。

クラブに入って1年、ただただびっくりしていた例会やサロンの中で、俳句のお仲間ができ、句

会を昨年末にスタートすることができた。これからは元気な八十路を目指して、お仲間と楽しむ俳句同好会でありたいと願っている。

その3 宇宙の学校に加えて

昨年の宇宙の学校は大成功であった。参加した子供達の生き生きとした目の輝きに科学することの喜びに浸っている姿を見ることができた。「はやぶさ」が帰還した感動も覚めやらない現在、このプロジェクトを題材に3本の映画が作製されたという。まだまだ話題は尽きないようである。

今後、宇宙の学校はプロバスのメインの事業の一つになることは間違いない。私の所属している俳句結社の同人の句に「いつまでもボール蹴る子ら北風の中」というのがあった。私はこれを見て、子供時代を懐かしく思い出すとともに、今の子供達の状況を思った。

私は毎日が日曜日で、ほぼ家に居るが、普段子供達の声を聞くことはめったにない。少子化で子供の数そのものが少なくなっていることもその一因とは思いますが、最近の子供たちは戸外で遊ばなくなっている。自然の中の遊びはほとんど体験しないまま大人になることが普通になっている。

私たちが子供の頃、誰もが体験した鬼ごっこも、かくれんぼも、そして木登りも、今の子供たちには無縁である。学校の帰り道で鞆を放り出して、泥まみれになって遊びに興じることなど想像の外であろう。家と学校の往復、そして帰れば塾通いが待っている。

しかし、これでよいのだろうか。自然体験は皆無、虫にも触れないし、名前も知らない。竹馬にも乗らず、川遊びもしたことがない。これは少しおかしい。遊びを通して覚える自然の仕組みも自然と接する知恵も身に付ける機会がまったく無いことになる。

そこで私はこんなことを考えてみた。宇宙の学校に加えてわんぱく学校（自然体験村）は開けないものだろうか。自然に恵まれた八王子で作れないはずがない。行政の作る公園の枠を広げた自然体験村があってもいいのではないかと。里山や田んぼや原っぱなどを備え、かつての遊びの達人たちが遊び方や自然体験の方法を伝えていく。

もちろんプロバスのメンバーも腕白を体験し

て育った世代の立派な先生である。童心に帰って、孫子の世代のために遊びの伝道者になることも、恩返しの一つではないだろうか。今の日本には遊びや自然との付き合い方を学ぶ子供のための学校が必要な時代なのである。

学校を開く場所はある。八王子には立派な里山が眠っている。行政がその気になれば、反対する市民は誰も居ないであろう。未来の子供達のために、次の日本を背負う世代が逞しく育ってゆくために、そんな発想があっても良いのではないか…と夢想している一人である。

(投稿 3)

お茶同好会と茶道豆知識(1) 矢崎 安弘



お茶同好会は、平成 15 年 (2003) 1 月、塩澤研修委員長の同好会活動活発化指針のもと、11 名の会員でスタートした。会長は近藤泰雲会員、指導は阿部治子会員 {茶道宗

偏 (そうへん) 流教授} (常時、数人のお弟子さんの応援あり)、幹事は矢崎安弘会員。例会は月 1 回とし、阿部治子会員の教場を会場としている。現在では (2011 年 10 月)、毎月第 4 火曜日の午前 10 時から 12 時まで。2 時間のうち、前半の 1 時間はお茶のお稽古、後半の 1 時間は、茶碗などの茶道具の話に加えて、自由に歓談。現在は会員数 14 名、幹事は竹内賢治会員。

私はプロバスに平成 13 年 (2001) 9 月に入会した。お茶の会設立のアナウンスがあったので、早速好奇心から入会した。私にとってお茶は未知の世界であり、ゼロからのスタートであった。同好会では当然のことながら、初歩的な手ほどきから始まった。しかし、お茶の知識は全くないので、説明されてもお茶の専門用語が全く分からず閉口した。先ず、炉の点前と風炉 (ふろ) の点前とあり、それぞれの茶道具を覚えねばならない。例えば、「棗 (なつめ)」。材質の木の名前と思いきや、抹茶入れ。そのほか、茶釜、敷板 (しきいた)、水差、茶入、茶杓、茶碗、建水 (けんすい)、茶筌 (ちゃせん)、蓋置 (ふたおき)、巾着、など。お茶を入れる前には、袱紗 (ふくさ) を折りたた

み腰につけるのだが、袱紗の折り方は未だにうまくいかない。文章にするとわずか数行だが、いろいろなことを覚えるのは大変。お稽古に馴染むまでには時間が掛かった。

茶碗は「国焼 (くにやき)」「高麗物」「唐物 (からもの)」に大分類される。「国焼」は、産地が全国各所にあり、名前を覚えるのに一苦勞。美濃焼、志野焼、織部焼、瀬戸焼、信楽焼、萩焼、京焼、楽焼 (らくやき)、など枚挙に暇がない。当然のことながら、茶碗を見てもなかなか見分けがつかない。お茶を点てることだけについては、だいぶ手馴れてきて進歩したと思っている。

現在では、お茶の点て方に加えて、お茶会形式でのお稽古を進めている。毎月テーマを設定して、例えば 1 月は「初釜」、2 月は「梅」、3 月は「雛節句」、4 月は「桜」、5 月は「初風炉」、6 月は「初夏」、7 月は「七夕茶会」、8 月はお盆休み、9 月は「菊」、10 月は「月」、11 月は「炉開き」、12 月は「無事」を楽しむ茶会、といった具合。毎月季節に合わせた凝った茶菓子が出されるのだが、楽しみの一つだ。

また、お茶会形式では、新しい作法を学ぶことになる。「寄付き」から、茶室に「入籍 (にゆうせき)」する時は「膝行」で入る。室内を進み床の間前で座り一礼して、掛け軸、花、花入れを觀賞。活けてある花の名前はまったくわからない。したがって、席主の秘めた趣向も理解できないでいる始末。立ち上がる時の立ち上がり方、そして、自分の席に座る。入室が最後になった時は、襖を音を立てて閉め、全員が入室をしたことを知らせる、などなど。室内にいる人達の呼び名は、席主、亭主、半東、正客、次客、三客、などなどの名称。点てたお茶が配られた時の受け取り方、特に正客になった時の対応は、ひととき大変。阿部先生の言うように、お茶は思いやりの心、おもてなしの心、日本文化を凝縮した総合芸術だとつくづく合点する次第。

振り返ってみると、既に丸 8 年が経過している。この間に記憶に残ることがいくつかあった。

1) 既に故人となられた岩岡茂之さんだが、某大手デパートの美術部出身の方で、陶磁器に大変造詣が深く、お稽古の後にいろいろと薫陶を受けた。

茶席では腕時計を外すこと。お茶を頂いた後、茶碗を懐紙で拭いて鑑賞するのだが、茶碗に金属が触れて傷をつける恐れがあるというわけ。茶碗を裏返して高台を見たりする際、前かがみになり畳に近づけ、万一落としても壊れないように気をつけること、などなど。

2) 平成 15 年 (2003) 2 月、生涯学習サロンで初めてのお茶会をエルシィで開催し好評を得た。この時は、岩岡茂之氏・野口正久両氏も存命中で、茶器の説明や掛け軸の説明やらを担当してもらった。会場には野点用の大きな番傘や生花を飾り大掛かりな演出であった。参加者も二部交代制で大勢の人に楽しんでいただいた。

3) 平成 17 年 (2005) 10 月、お茶会を立川で開催した。中野義光会員のご本家が立川市柏町(砂川 7 番)にあり、「蔵館」と称し、国の「登録有形文化財」に指定されており、甥の中野猷一氏が居住・管理されている。中野会員のご好意で、この「蔵館」で茶会を開催した。当日は、阿部先生のお弟子さん達も大勢参加し、その中には南ロータリーの諏訪さんの娘さん・永町さんもいて、後でピアノ演奏をしていただき、アンコールの嵐の中、ポピュラーナンバーを何曲も聞かせていただいた。

4) 平成 20 年 (2008) 8 月、立川富美代会員が窓口になっている日独オーケストラ交流で、八王子訪問中のドイツ・ケムニッツ・オーケストラをお茶会を開きお接待した。36 名の団員にとっては初体験だったようで、わが同好会全員で接待に努めました。

5) 平成 21 年 (2009) 4 月、長野県飯田市にて写真同好会と合同で茶会を催した。実は、わがお茶同好会の近藤泰雲会長が、飯田市にある増泉寺の住職をされていて、境内にある樹齢 300 年の枝垂桜を見に来ないかとのお誘いを受け、実現した。飯田市は一本桜で有名で、市内各所に素晴らしい一本桜があり、その鑑賞も大いに楽しんだ。

6) 平成 23 年 (2011) 6 月、陶芸教室で「マイ茶碗」を作った。高取和郎会員は多年に亘り作陶を続けておられ、高取さんの斡旋で実現した。我々参加者一同にとっては初体験。その割には上々(?!!)の出来栄であった。本件について

では「プロバスだより」191 号に高取様の投稿文が掲載されています。(つづく)



投資の為の格付けランキングが、世界の金融、経済を騒がします、ギリシャの如く。

ネットのニュースを見ていたらいろんな事に対して、格付けがありますね。少し旧聞ですが、「世界で評判のいい国」がありました。信用度・敬意・好感度等を中心に、国民の生活の質・治安・環境保護の認識等を組合わせているそうです。

(アメリカの調査会社が、各国の国や、企業の評判をランキングしている) 1 位カナダから、スウェーデン、オーストラリア、スイス、ニュージーランド、ノルウェー、デンマーク、フィンランド、オーストリア、オランダとヨーロッパ、オセアニア勢が続き、アジア 1 2 位が日本でした、アジアの中では 1 位。どう考えますか。「宇宙の学校」での川先生が日本人の心について話されましたが、日本人も少しは世界に理解されていると感じます。

世界美食ランキング等もあって、1 位はタイのイスラム風「マッサン・カレー」とか、一度食べてみたいですね。次いでナポリ・ピザ(イタリア)、チョコレート(メキシコ)、4 位は寿司(日本)、北京ダック(中国)、ハンバーガー(独)、ペナン風マレイシャ麺などと続きます。名前は同じでも、お店によってずいぶん異なりそうですね。

トップ 50 の中にアジア料理は 19 あって、和牛ステーキ(29 位)、あんきも(32 位)が入っているそうです。みんな旨そう。(K. S)

(編集後記)

杉、ヒノキの花粉に悩まされた方(私は両方)、やっと解放されますね。ブタクサアレルギーの方は、お気の毒ですがこれから長い期間悩まされますね。

80 過ぎたら花粉症が治った人がいたということを知りましたが、本当でしょうか。

(寺田 昌章)